

日本の祖先崇拜の由来を探る

御所園正信（倫理研究所特別研究員）

はじめに

現代のとくに都市生活者の家庭では、仏壇も神棚もないところが少なくないが、盆の時期（八月十三～十六日）になると墓参のため故郷へ帰省する人々で交通機関はラッシュとなる。春と秋の彼岸には、家族連れで墓参する人も多い。これらのしきたりは古来からの祖先崇拜の慣習による。祖先崇拜は、正月、春と秋の彼岸、盆など季節の変転に応じて行われる年中行事や、出産祝い、名付け祝い、七五三、成人式、結婚式、葬式など、いわゆる通過儀礼とも深いつながりをもっている。

社団法人倫理研究所が、平成十七年に十代から六十代までの男女一二〇〇名を対象に行った「日本人の倫理意識」に関するインターネット調査⁽¹⁾によると、社会に必要と感じる倫理コンセプトのなかで、「祖先や神仏を大切にすること」という項を評価している人は二七・二%であった。全体からみると現代に必要な道德とは捉えられていないが、それでも六十代は社会に有効な倫理として高く評価している。年代が下がるにしたがって喪失傾向が現れ、十代の若年層においては消滅寸前にあるという調査結果が示されている。

「祖先や神仏を大切にすること」という倫理コンセプトが社会に有効であると思う人が割に多い世代の祖先祭祀に関する個人の実践度はどうか。平成十四年に四十代から六十代までの男女九〇〇名を対象に第一生命経済研究所が行った「死のイメージと死生観」⁽²⁾に関する調査によると、「朝夕や命日などに、仏壇や神棚に手を合わせたり、お供えする人」は四二・九%、「家に仏壇や神棚がある人」は五〇・三%であった。

ところが、日常的な祖先祭祀の風習がなくなっている一方で、「毎年、初もうでをする人」は六〇・〇%、「毎年、お盆や彼岸などに、先祖の墓参りをする人」は六三・八%となっている。

現代における祖先崇拜は、日常的な祖先祭祀というよりも、年中行事として捉えられている傾向が強い。祖先や神仏を大切にすることが社会に有効な倫理と思う人が割に多い四十代以上の家庭で、仏壇や神棚など祭祀用具のない家が半分近くもあることは、祖先崇拜の慣習は崩壊寸前にあるといえるのではないか。

祖先崇拜の衰退の徴候は、明治の末期から大正時代にかけてあらわれはじめたという⁽³⁾。人口の都市集中化と産業化によって、個人の意志ばかりが尊重される社会システムとなり、生命のもとである親祖先を敬い尊ぶ感情は希薄になってしまった。日本固有の「恩」の思想は顧みられなくなり、祖先崇拜も衰退していったと思われる。

明治以降の産業社会の到来は、祖先崇拜の慣習を弱体化させただけでなく、宮参り、七五三、結婚式など年中行事や通過儀礼の世俗化を促進させた。

近代化の進行は、物質的繁栄をもたらして現代社会の生活を快適なものにしたが、それ

に比例して主観的な幸福感、精神的な生活満足感をもっている人々が増えたかどうかは疑わしい。

家庭崩壊の危機が叫ばれて久しいが、離婚は増大する一方で青少年の心の成長にも異変が生じている。いじめ、不登校、校内暴力、学級崩壊、凶悪な青少年犯罪の続発など深刻な問題に直面している。今日ほど豊かな人間性や生きる力を育む教育が求められている時代はないであろう。

現在、倫理研究所には、約四万件の純粹倫理の実践体験がコンピュータにインプットされている。そのなかには、生命のもとである親祖先への敬と恩の具体的倫理実践のひとつとして墓参を行い、生活改善ができたという体験事例はかなりある。自分の生命のもとを遡って恩意識を高めると、生きる力が湧いてくる。累代に遡った祖^{おや}への報恩感謝の心を深めると、それはやがて徳となって表れ、個性が光り輝くようになる。祖先を尊んでいると、子や孫も親祖先のプラス面の性向や能力を受け継ぎやすい。自分の生命のもとである親祖先への敬と恩の実践は、いつ、どこで、だれが行っても、幸福になれる、普遍性をもった生活の筋道である。

だが墓参は、習俗としての祖先崇拜の慣行でもある。たとえ、墓参が生命のもとである親祖先に対する敬と恩の具体的倫理実践であったとしても、世界中で日本と同じ形態の祖先祭祀を行うことは不可能である。それぞれの国や民族のしきたりに即した親祖先への敬と恩の倫理実践があってしかるべきであろう。日本では日本の慣習にしたがって親祖先に対する倫理実践を行えばよいのだが、祖先崇拜の習俗が衰退した現代においては、伝統的な祭祀形態の意味がわかりにくくなっている。墓祭祀は別として、仏壇祭祀、神棚祭祀などがどうして祖先への敬と恩の倫理実践につながるのかわからないという若者も多い。これを解決するには、祖先崇拜の由来をたどって、祖先崇拜とは何であるかを知ることが大切である。

本稿は、『倫理』第六八六号に掲載した内容をベースにして加筆修正し、再構成した。日本の祖先崇拜を理解する一助として、その由来を探る。